



2017年(平成29年)5月20日発行

特定非営利活動法人
あきたスギッチファンド

TEL 018-839-8941

FAX 018-829-5803

e-mail madoguchi@sugicchi-fund.jp<http://www2.akita-kenmin.jp/~akita-npo-fund/>

平成29年度のスタートに当たって

平成28年度は、ファンド設立以来ずっと資金調達を担当していた専任の職員が居なくなり、大変不安な心細い船出でした。しかし、多くの個人、団体からのご寄付、特に社会貢献型自動販売機からのご寄付や、秋田銀行職員有志の皆様、秋田県職員有志の皆様からのご寄付、秋田魁新報社の新しい企画からのご寄付などにより、例年なみの寄付金を獲得することができました。皆様のご支援に厚く感謝申し上げます。

昨年12月にはスギッチが今年の11月に秋田県から引退するというニュースが飛び込んできて驚いてしまいました。当法人にどんな影響があるのか、名称は？ロゴは？早速運営委員会を開いて検討しました。使えないのはロゴだけだということで、広く知られ定着している名称はそのまま使っていこうということになりました。

スギッチファンドは、国税庁から認定NPO法人に認定されて今年度で5年になり、改めて申請しなければなりません。平成23年度のNPO法改正により、今回は秋田県から認定を受けることとなりますので、2月に県に申請書を提出しました。審査の結果平成29年4月1日から平成34年3月31日までの5年間認定されることになりました。今後とも認定NPO法人に相応しい運営に努めて参ります。

最近、全国的にコミュニティファンドが、休眠貯金の活用や遺贈の受け取りなど新たな資金獲得に向けて活発な活動を展開しております。今後当法人がこういうことに関わっていくか考えていかなければなりません。新年度には会員全体でファンドの最近の動向について研修する機会を作って参ります。ぜひ多くの皆様にご参加頂き、当法人のあり方、進むべき方向等について議論する機会にして頂きたいと考えております。

(理事長 菅原 展子)

総会報告

平成29年度総会が4月28日15時20分からパーティギャラリー・イヤタカ(秋田市中通6丁目)に於いて開催されました。司会者(高城憲子 NPO 法人秋田県南NPOセンター事務局長)が正会員134名中、出席者20名、委任状62名で会議は成立した旨を告げ、開会しました。

次に理事長が、総会への出席と平素の協力のお礼を述べると共に、スギッチのロゴが使えなくなるがスギッチファンドの名称はそのまま継続したいということ、認定NPO法人の認定を秋田県に申請し、この4月1日から5年間の認定を受けたことなどを話し、今後とも当法人について皆様も一緒に考えていただきご支援をよろしくお願ひしたいと挨拶しました。

続いて議長に高堂裕氏を選出し、早速審議に入りました。第1号議案 平成28年度事業報告、第2号議案 活動計算報告について、事務局から説明があり、続いて監査委員石川昭作氏より事務が適正に処理されているという監査報告がなされました。議長が第1号議案、第2号議案を一括して承認を求めたところ、満場異議なくこれらを承認可決しました。

次に第3号議案 平成29年度事業計画(案)、ならびに第4号議案 平成29年度活動予算(案)について、それぞれ事務局が資料に基づき説明をしました。その後議長が第3号議案、第4号議案を一括して承認を求めたところ、満場異議なくこれらを承認可決しました。

(28年度事業報告、活動計算書、29年度事業計画、活動予算を参照)

第5号議案 定款変更は、平成28年6月NPO法が改正されたことに伴い、毎年度貸借対照表の公告が必要になったことによるものです。新定款「第56条 この法人の公告は、官報により行う。ただし、法28条の2に規定する貸借対照表の公告については、当法人のホームページに掲載して行う。」という事務局案について、議長が議場に諮ったところ、満場一致で承認されました。

第6号議案 役員一部改選は、理事秋田銀行児玉大平氏が異動のため退任の申し出があり、代わって秋田銀行営業本部地域サポート部次長田村健氏を選任するという案で、これも満場一致で承認されました。

議事は以上で終了し、次に理事会で決定した ①選考委員改選について、②運営委員一部改選について報告がありました。(下表を参照)

以上により総会の全日程を終了しました。

①選考委員改選について

29、30年度本ファンド選考委員

氏名	所属
栗谷 侑志	株式会社ワーズ
小室 秀幸	(株)小室経営コンサルタント代表取締役 インキュベーションマネージャー
小松 弘樹	秋田県あきた未来創造部 地域の元気創造課 県民協働推進班主幹兼班長
佐々木 美奈子	NPO法人いきいきFネット秋田 理事 秋田県男女共同参画センター 副センター長
高橋 雄悦	株式会社秋田魁新報社 総務局次長兼総務部長
沼倉 充	NPO法人秋田県南パソコン支援市民ネット 副理事長
村岡 典子	まちなかトープ 代表

任期は平成31年3月31日まで。

29年度少子化対策応援ファンド選考委員2名の改選について

秋田県企画振興部秋田県人口問題対策課 政策監 久米寿氏、(株)プレステージ・インターナショナル 管理部長 高島由美氏が任期途中で退任したため、その補充として、秋田県あきた未来創造部 次世代・女性活躍支援課 政策監 水澤里利氏、(株)プレステージ・インターナショナル 業務部長 川口祐一郎氏を選任しました。
任期は平成30年3月31日まで。

②運営委員一部変更について

NPO法人子育て・高齢者介護サポートばっけの会 松村栄一氏、秋田県企画振興部地域活力創造課 課長 恵比原史氏、秋田銀行営業本部地域サポート部 次長 児玉大平氏の3名が退任、代わって秋田県あきた未来創造部地域の元気創造課 課長 坂本雅和氏、秋田銀行営業本部地域サポート部 次長 田村健氏が就任されました。
任期は平成30年3月31日まで。



総会終了後同じ会場で、株式会社ブラウブリッツ秋田社長岩瀬浩介氏による「スポーツを通した街づくり・人づくり・夢づくり」と題した講演会が開催されました。

「スポーツを通した街づくり・人づくり・夢づくり」



講師 株式会社ブラウブリッツ秋田
社長 岩瀬 浩介氏

Jリーグは1993年誕生し、現在はJ1からJ3まで38県54クラブに上っている。各地に広がったJリーグは、地域活性の大きな力になっている。

Jリーグと街づくり を鹿島を例に述べてみる。鹿島工業地帯は工場誘致の成功例として、茨城県に経済発展をもたらした。反面、当時地域の若者たちは精神的に荒び、若者の県外流出は止まらなかった。そんな時鹿島アントラーズが誕生した。鹿島アントラーズの活躍は地域に誇りを持たせ、郷土愛を育み、人口減ストップにもつながっていった。

サッカーは同じ舞台、同じルールで戦っており、そこで勝つことは大きな誇りになる。ワールドカップも世界中同じルールで戦っており、国を挙げて応援する姿が見られる。また、応援するサポーターの地域活性化に資する効果も見逃せない。

Jリーグと人づくり Jリーグは子どもの育成に力を入れている。ブラウブリッツでもスクールを開催し子どもたちに技術面だけでなく、自立性、協調性などを育みたいと考えている。子どもたちは自分が進んで行くことなら頑張れる。子どもたちに夢を持たせることができる。

Jリーグと夢づくり 昨年11月から今年の2月までの3か月間、ブラウブリッツ秋田後援会が中心となって秋田市にスタジアム整備を要望する署名運動を行ったところ、18万人の署名が集まった。県民のメッセージと大変うれしく思っている。私たちの望むのは、健康づくりを発信できるスタジアムである。サッカーだけでなくいろいろな人とつながり、スポーツを地域に根付かせ、豊かな人生に繋げたいと考えている。

お知らせ ～今年度の助成事業スケジュール～

◎ 第17回あきたスギッチファンド助成事業

ファンド	助成率	募 集			
本ファンド	90%	10万円	3団体	30万円	3団体
		50万円	2団体		
冠ファンド秋田魁新	100%	10万円	1団体		
報社 がんと生きる		20万円	1団体		

募集期間 5月 8日～6月 8日

審査会 7月 9日(日)

事業期間 7月10日～2月10日

◎ 第18回あきたスギッチファンド助成事業（予定）

ファンド	助成率	募 集			
本ファンド	90%	10万円	2団体	30万円	3団体
		50万円	2団体		
冠ファンド	100%	30万円	1団体	10万円	3団体

募集期間 10月 2日～11月 2日
 審査会 12月 3日（日）
 事業期間 12月 4日～8月31日

◎ 少子化対策応援ファンド

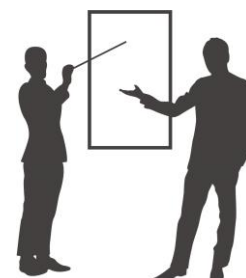
ファンド	助成率	募 集			
子ども・子育て 支援等	100%	20万円	4団体	30万円	6団体
		50万円	2団体		

募集期間 4月17日～5月17日
 審査会 6月17日（土）
 事業期間 6月18日～2月10日

※助成金額の総額（360万円）に達しない場合は、6月下旬に追加募集を行う。

◎ 助成事業報告会 7月30日（日）

第14回～第15回助成事業の報告会



◎ 第12回 あきたスギッチファンド チャリティ・ゴルフコンペ in 樺台

6月7日（水） 申し込み締切 6月2日



あきたスギッチファンド寄付者一覧（平成29年1月～平成29年3月）

※敬称略、順不動、お名前の公開許可を頂いた方のみ掲載します。

団体・企業等	株式会社福岡ドライクリーニング、みちのくコカ・コーラボトリング株式会社、 有限会社ワタ商事、株式会社伊藤園秋田支店、サントリービバレッジサービス(株)秋田支店、 ダイドードリンコ株式会社、秋田パール街実行委員会、(株)秋田魁新報社、(株)ウイズ、 秋田県職員消費者生協、秋田県総合公社、アマノ募金箱、スープホリック、イオン僱事 秋田県北NPO支援センター、スギッチ応援隊、遊学舎募金箱
個人	佐々木茂美、菅原展子、加藤郁子